

横須賀市自然・人文博物館付属

馬堀自然教育園／天神島臨海自然教育園・天神島ビジターセンター

しぜんきょういくな

自然教育園だより

Vol.4 No.3

(2011年秋冬号)

2012年1月15日発行

横須賀市自然・人文博物館

046-824-3688

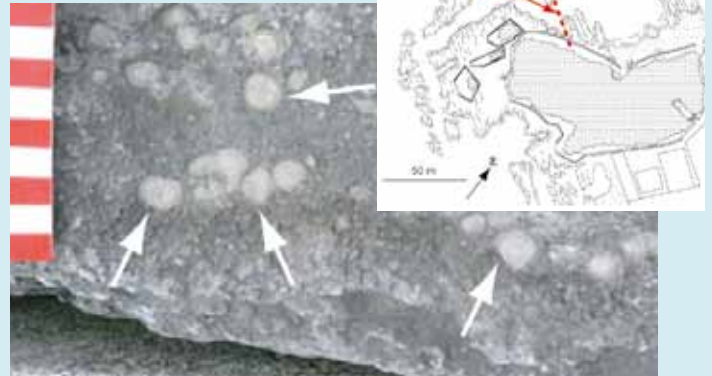
自然教育園の見どころを「天神島の自然誌」「馬堀の自然誌」として連載します！

天神島の自然誌 ①火山豆石

天神島の磯に広がる地層には火山豆石（右図白色の矢印）が入っています。火山豆石とは、火山灰が球状に固結したもので、中心部には核を持つことがあります。マグマ水蒸気爆発のように大量の水蒸気を含む噴煙では、表面張力や静電気力によって火山灰が凝集しやすくなります。火山豆石はこのような条件で、噴煙の中で火山灰が凝集して作られると考えられています。一般的には火口から20km以内に落下するとされていますが、噴火の形式や規模によってはもっと遠くまで飛ぶこともあるようです。1987年の伊豆大島三原山の噴火でも、火山豆石が火口から東側の島内に落下しました。

火山豆石を固めるものには水と氷が考えられます。水の場合は火山豆石がやわらかく、地上や海上に落下した際に壊れてしまうと考えられます。一方、氷で固められた火山豆石は衝撃に強いので、海上に落下したあと海底まで到達し、地層中に保存される

火山豆石マップ

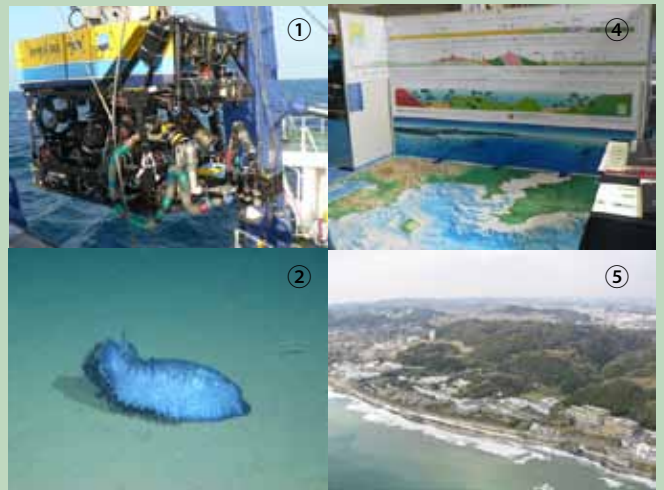


可能性が高いといえます。火山豆石が氷で固められるためには、数千メートル上空まで火山灰が噴出される必要があると考えられています。天神島の火山豆石も氷で固められていたため、深海底まで到達し、地層に保存されたのかもしれない。

火山豆石は天神島では1か所（上図赤色の点線）でしか見られませんが、それを含む地層は笠島まで続いています。三浦半島ではこのほかに横須賀市長井、三浦市城ヶ島などの地層に火山豆石が含まれています。（柴田 記）

本館企画展示「相模湾と三浦半島」

企画展示「相模湾と三浦半島ー深海から空へー」が2011年10月18日～12月25日に開催されました。この企画展示では、相模湾の深海調査で得られた貴重な岩石資料や生物資料を映像や静止画とともに展示し、三浦半島の岩石資料・空中写真もあわせてご紹介しました。主な内容は、①海洋調査船「なつしま」と無人探査機「ハイパードルフィン」、②相模湾の深海で採集された生物資料・岩石資料、③相模湾の深海映像、④「相模湾庭園周遊」、⑤三浦半島の空中写真。なお、パワードパラグライダーで撮影された天神島周辺の迫力ある空中写真は、ビジターセンター2階で展示されています。



これからの博物館行事《特別展示 三浦半島の干潟》

三浦半島の干潟とそこに暮らすさまざまな生物を貴重な標本、生態写真、映像でわかりやすく楽しく紹介します。あわせて有明海のムツゴロウなど日本の代表的な干潟の生物も紹介します。

会期：2012年1月28日（土）～3月25日（日）
会場：横須賀市自然・人文博物館 3階特別展示室
展示解説：2012年1月29日（日）午後2～3時



コメツキガニ



チュウシャクシギ

▶ 自然教育園での出来事

(2011年6月～10月)



馬堀自然教育園

6月1日 ヤマトシジミ飛ぶ。オオバイボタの花にモンシロチョウ集まる。9日 ウラギンシジミ (a)。シロジマエダシャク初見 (b)。巣立ったばかりのハクセキレイ、スズメの若鳥が目につく。アオゲラ鳴く。ハゼノキ、マテバシイ満開、ヤブニツケイ咲き始め。コモチマンネングサ咲く。スダジイの根元にカンゾウタケ。ヤマアカガエル (f)。14日 ゲンジボタル5匹水路上。エナガ (c)。アカメガシワ咲く。17日 ムラサキシキブ咲き始め。23日 ヤブレガサ咲く。ムラサキニガナ、ミヤギノハギ咲き始め。24日 トウキョウサンショウウオ6匹を放流 (c)。26日 ヤブレガサの花でトラマルハナバチ吸蜜。タシロラン開花(倉庫前)。エナガ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、コゲラが来てにぎやか (a)。コ克蘭開花。29日 クヌギにコクワガタ雌雄、オオスズメバチ。



カンゾウタケ (6/23)

7月3日 ハンゲショウの葉が白くなる。ヤブコウジ咲く。ベニシジミ (a)。6日 トウネズミモチ、マサキ咲く。ハンゲショウ咲く。ニイニイゼミ鳴く。ハシボソガラスがオニグルミをくわえて飛び立つ (c)。ヤブヤンマ、上の池。12日 ミズヒキ、ジャノヒゲ咲く。タシロラン果実が裂開して種子を散布。ナガサキアゲハ、コムスジ (c)。クヌギの幹にカナブン、ヒカゲチョウ (e)。学習棟内のカブトムシ羽化。14日 ツマグロヒョウモン、シオカラトンボ雌。20日 調査でマーキングしたカブトムシ発見 (b)。マンリョウ咲き始め。アオバハゴロモ成虫。ヒグラシ鳴く。23日 コヒルガオ咲く (b)。タシロランしおれる。コガネグモ巣を張る (c)。ミンミンゼミ初鳴き。27日 キジバト、ヒヨドリ、ウグイス、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、スズメ。トゲナナフシ (a)。28日 オニヤンマ、アブラゼミ (c)。クヌギにカブトムシ、カナブン、ルリタテハ、ヒカゲチョウ。カラスザンショウ咲く。

8月3日 ミンミンゼミ鳴く。幼生期まで水槽で保護していたトウキョウサンショウウオ15匹上の池へ放流 (c)。7日 カワセミ。アカボシゴマダラ、キアゲハ、アオスジアゲハ、オニヤンマ、ナナフシモドキ、ムラサキシジミ (a)。11日 シロオニタケ、サトキマダラヒカゲ。13日 ヤブヤンマ (c)。タマサンゴ果実黄色に色づく。16日 モンキアゲハ。ヤブラン、ノシラン咲く。17日 ミズヒキの花の赤が目立つ。



樹液に集まるカブトムシなど (7/28)

18日 ツクツクボウシが鳴く。トウバナ咲く。21日 エノキの果実オレンジ色に熟す。ヌスビトハギ咲く。24日 ニホントカゲ。オオシカラトンボ (c)。ヤブキリ、オニヤンマ、ショウリョウバッタ (a)。

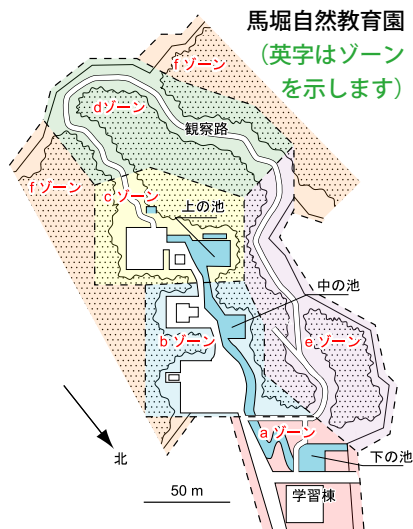
9月3日 アカボシゴマダラ (a)。イヌトウバナ、キツネノマゴ咲く。8日 ハ



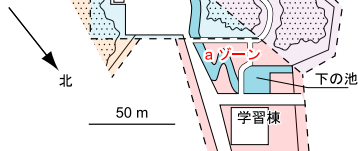
シロオニタケ (9/11)

シカグサ咲く。9日 タマゴタケ。10日 メジロ、コゲラ、シジュウカラ、センダイムシクイ。ミスジチョウ。シロオニタケ (d)。13日 スズメの群れ水浴び (a)。オオシマザクラに毛虫大発生 (a)。ヒヨドリジョウゴ花と若い果実。16日 ツチイナ

10月6日 ヤブマメの花にイチモンジセセリ。アケビ結実。ゲンノショウコ開花。8日 ムラサキシキブの果実色づく。アシタバ開花。9日 ツクツクボウシ鳴く。ヒヨドリ、メジロ鳴く (a)。12日 タイワンリス2匹、オニグルミの果実を食べていた (a)。13日 セミの声なし。カントウカンアオイ開花。オギの穂が出た。ムラサキツバメ、ヒバカリ。ムラサキシメジ (b)。15日 ハダカホオズキの葉にアカスジキンカメムシの幼虫 (c)。タマゴタケ (d)。20日 トネアザミ咲く。アキアカネ (a)。クロヤツシロラン結実。ヒヨドリ賑やかに鳴き、水浴び (a)。タイワンリス2匹、下の池 (a)。22日 ハダカホオズキ赤く結実。カナムグラの茂みにツマグロオオヨコバイ多数。アカハライモリの求愛行動 (c)。キセルガイ類がきのこに集まる (f)。25日 カワラタケ、ムラサキシメジ (b)。センリョウの果実色づく。タラノキの果実黒熟。27日 アカスジキンカメムシの幼虫 (c)。コゲラが木に穴をあける (d)。28日 オオバグミ、カントウヨメナ咲く。ヒヨドリジョウゴの果実赤く熟す。



馬堀自然教育園 (英字はゾーンを示します)

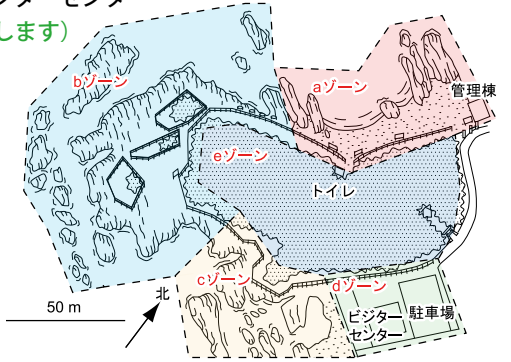


ハダカホオズキ (10/22)

天神島臨海自然教育園

天神島臨海自然教育園およびビジターセンター

(英字はゾーンを示します)



6月4日 セツカが鳴きながら飛翔。沖合をコアジサシ1羽が通過。森の縁をアカボシゴマダラが飛翔(e)。潮だまりでジャノメアメフラシ。サンハチウロコムシ、セジロムラサキエビなど(b)。9日 草地でモンシロチョウ、砂浜で給水するアオスジアゲハ(a)。ハマウドの花の上にアカスジカメムシが多数集まり、周りにはキアゲハが飛ぶ(c)。10日 南西側の砂浜にミズクラゲ、アカクラゲが多数打ちあがる(c)。11日 笠島でクロサギの幼鳥2羽に親鳥が給餌し、天神島の岩場では成鳥2羽が食べ物を探索(b)。16日 磯でシラクキウミウシ、シロウミウシ(b)。17日 磯でクロシタナシウミウシ、ミヤコウミウシなど。ヒョウモンダコ(猛毒)。クサフグの産卵(b)。18日 砂浜でコチドリ(c)。磯でケブカガニの求愛行動(a)。19日 浜でイソヒヨドリの幼鳥2羽(b)。森の中でアカテガニ(e)。磯でコモウミウシ、コノハミ



キアゲハの幼虫 (6/25)

ドリガイ(b)。ハマウドの花の上にキアゲハ幼虫(a)。23日 林縁でムネマダラトラカミキリ。林の中にホシベニカミキリ(e)。24日 ハマナデシコが開花。25日 スカシユリが開花。30日 潮だまりにオヤビッチャ、カゴカキダイ、ニシキベラの幼魚(b)。

7月3日 ハマオモトのつぼみ。14日 ムクドリがタブノキの実を食べていた(d)。ハマボウ、ハマゴウ、ハチジョウナ、ハマグルマが開花。15日 磯でシマスズメダイ、チョウチョウウオの幼魚、クモガタウミウシの卵(b)。砂浜の波打ち際でヒメハマトビムシがかたまりに(a)。ニイニゼミ初鳴き(e)。17日 磯にはオトメウミウシ、サラサウミウシ、ショウジョウトンボ(b)。22日 海岸にウスバキトンボがたくさん飛来。台風の影響で砂が運ばれ、砂浜に生育していたオカヒジキが消失(c)。24日 岩場に200羽以上のウミネコが集合(b)。28日 上空をヒメアマツバメ2羽が通過。29日 ミンミンゼミ初鳴き(e)。30日 林縁でヨスジトラカミキリが多数(e)。31日 磯でリュウモンイロウミウシ、ヒメマダラウミウシ、ハナイロウミウシなど。岩の隙間から巨大なおニイソメ(b)。



ヒメマダラウミウシ (7/31)

8月5日 林内でゴイサギ数羽が休息(e)。淡水池でハイイロゲンゴロウを多数確認し、周辺にはショウジョウトンボ(b)。ハマカンゾウが開花。6日 天神島では初記録のタカブシギが岩場で見られた(c)。アカボシゴマダラがエノキに産卵(e)。14日 林内でアオバト1羽(e)。18日 ダイサギ

が上空を通過。沖合ではオオミズナギドリが大群で飛翔。19日 磯でコトヒキの幼魚多数の群れ(c)。25日 岩場ではキョウジョシギ2羽、キアシシギ2羽(a)。磯でコノハミドリガイ、サメジマオトメウミウシなど(b)。笠島で若いハヤブサが捕食。ミサゴが杭に。26日 砂浜でトウネン4羽(c)。教育園入口でスズメがハラビロカマキリを捕食(a)。森でゴイサギ約30羽が休む(e)。笠島の杭にハヤブサ。27日 ウミネコの成鳥が自動ドアから建物内に侵入(d)。

9月1日 ハマゼリ開花。ハマカンゾウが柵内いっぱい咲く。淡水池の近くでギンヤンマ、アオモンイトトンボ(b)。2日 島の西側を通過し荒崎方向へ飛んでいくコアジサシ3羽。ミサゴ1羽は笠島の杭にとまり、もう1羽は上空でトビに攻撃されていた。3日 林内でサトクダマモドキ(e)。9日 キアシシギ2羽(1羽には釣り具が絡まっていた)とキョウジョシギ7羽(2羽はまだ夏羽から冬羽に換羽中)が砂浜で採餌(a)。ツルボ開花(d)。センニンソウが花盛り。磯ではアメフラシ、クロヘリアメフラシ(b)。11日 潮だまりにカタクチイワシの群れが入る。磯でフウライチョウチョウウオ、イソスズメダイ、テンジクスズメダイ(b)。16日 イソヒヨドリがビジターセンターのテラスでカマキリ類を捕食(d)。22日 台風15号により、海岸の草本のほとんどが波で流され、ビジターセンターの柵が倒された。塩害で落葉樹の多くが落葉。管理棟の階段、百葉箱、柵などが砂で埋まった。24日 ツバメの幼鳥14羽がビジターセンターの2Fバルコニーで休息(d)。岩場ではイソシギ同士が激しく争う(c)。25日 ハシブトガラスがハマオモトの株を食い荒らす。林内で500羽以上のスズメがねぐら入り(e)。29日 タイワンリスが樹上でネコを威嚇し、アケビを採食(e)。草地や海上でウスバキトンボが群れて飛翔。ツクツクボウシの声を聞く。30日



ツルボ (9/8)



台風で倒れたフェンス (9/22)

た。24日 ツバメの幼鳥14羽がビジターセンターの2Fバルコニーで休息(d)。岩場ではイソシギ同士が激しく争う(c)。25日 ハシブトガラスがハマオモトの株を食い荒らす。林内で500羽以上のスズメがねぐら入り(e)。29日 タイワンリスが樹上でネコを威嚇し、アケビを採食(e)。草地や海上でウスバキトンボが群れて飛翔。ツクツクボウシの声を聞く。30日

南風が強く、オオミズナギドリの群れが天神島近くまで寄って飛翔。コゲラ、ウグイス、メジロ、シジュウカラ、スズメが混群になって行動(e)。建物の入り口にクビキリギリス(d)。森でアカボシゴマダラ。



アカボシゴマダラ (9/30)

2日 岩場にカワセミ。6日 ハクセキレイがビジターセンター裏の草地でトンボ類を捕食。8日 渡り途中のヒヨドリ50羽ほどの群れが森と海上を往復。9日 モズを今季初認(e)。13日 ユリカモメ2羽を今季初認。磯でフウライチョウ、ウチヨウウオ、トゲチョウウオの幼魚(b)。15日 海上が大時化。クロサギ3羽が風に流され飛翔。27日 笠島付近をミサゴ2羽が旋回飛翔。オオバグミの花が満開。28日 アオサギが磯で大きなカサゴを捕獲(c)。29日 潮だまりでコノハミドリガイ、フレリトゲアメフラシ、イッカクガニ(c)。

10月1日 岩場でクロサギが魚を捕食(c)。

博物館行事レポート

夏休み企画「箱めがねで磯の生き物を観察しよう」 7月23日 参加者24名

夏休み企画として開催した本行事は、簡単で安全に水の中のように観察できる箱めがねを使って、天神島臨海自然教育園の磯の生き物の生態を観察しようというものです。使用した箱めがねは博物館オリジナルの手作り品で、参加者全員に貸し出しました。クサフグやキヌバリなどの魚、イソギンチャ



ク類、貝類、甲殻類(エビ・カニ)といったさまざまな生き物が、箱めがねを使うことによってとても鮮明に観察することができ、参加者は驚きの声を上げていました。(担当:萩原)

夏休み企画「夜の昆虫かんさつ」

8月6日 参加者24名

昼と夜で違う昆虫の生態を天神島で観察するため、まず夕方に集合して、外がまだ明るいうちに夏の昆虫を観察しました。昼間、昆虫は主に砂浜に打ち上がった海藻や林内の木陰などで見つけることができました。その後、ビジターセンターで天神島の昆虫について講義を行い、日没後に再び教育園内へ。海岸林の近くに設置したライトトラップ(明かりで昆虫を集める器材)には、無数の小さな虫をはじめ、ニイニイゼミやアオドウガネ、オオコフキコガネなどが飛来していました。時折

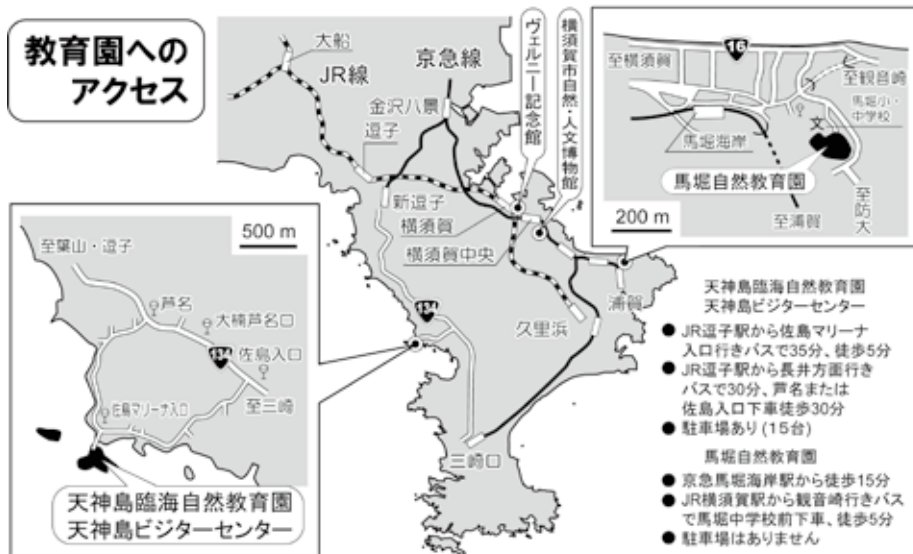


オオコフキコガネ

ぶつかってくる昆虫に驚きながら、14種の昆虫を観察しました。一方、砂浜では昼間ほとんど見られなかったヒョウタンゴムシが姿を見せました。日中はさわれないくらい熱くなる砂浜の砂が、夜はひんやりと冷たく感じられることなど、砂浜の手ざわりを実感しながら、その上を歩きまわる虫たちを観察することができました。(担当:内船)

横須賀市自然・人文博物館 附属自然教育園

教育園へのアクセス



馬堀自然教育園

〒239-0802 横須賀市馬堀町4-10-3
TEL 046-841-5727 (FAX 共用)

神奈川県指定名勝・天然記念物
天神島臨海自然教育園

天神島ビジターセンター

〒240-0103 横須賀市佐島3-7-3
TEL 046-856-0717 FAX 046-857-5219

博物館本館

〒238-0016 横須賀市深田台95
TEL 046-824-3688
FAX 046-824-3658

休館・休園日 月曜日・年末年始

開館・開園時間 9:00-17:00

(自然教育園 10~3月は16:30まで)

博物館ホームページでも、「自然教育園だより」をご覧ください!

(<http://www.museum.yokosuka.kanagawa.jp/>)